

琴浦町男女共同参画意識調査報告書（概要版）

1. 調査概要

調査対象：琴浦町在住の満 18 歳以上の男女 2,000 名（住民基本台帳に基づく無作為抽出法）

※10 代は抽出されなかったため、実際の対象は 20 歳以上の男女

※各世代から万遍なく回答を得るため、過去実施した調査の回収率から年代ごとの対象人数を考慮した上で、無作為抽出を実施。

調査期間：令和 4 年 7 月 9 日～ 8 月 8 日

回答数：507 名（郵送件数 420 件、Web 回答 87 件）（回収率：25.4%）

2. 結果のポイント

① 男女共同参画に関する用語の認知度について

前回調査より、一部の用語（「ジェンダー」「ワーク・ライフ・バランス」）の認知度が向上。

「ジェンダー」は、意味や内容を知っている割合は 49.7%で平成 28 年度に実施した前回調査から 27.2 ポイント増加し、認知度が大きく向上。「ワーク・ライフ・バランス」は 34.5%で、3.4 ポイント増加。「男女共同参画」「イクボス・ファミボス」などの用語は前回調査からポイントが下がる結果となった。

② 男女平等に関する意識について

- ・ 世間的、個人的のいずれの視点においても、男女の地位の平等意識が最も高い分野は、「学校教育の場」。
- ・ 「学校教育の場」以外の分野（「家庭生活」など）では、世間的には男女平等感が低くとも、個人的には男女平等と感じている人の割合は高い。また、女性と比べて男性の方が男女平等を高く見つめる傾向がある。
- ・ 個人的な平等感は、すべての分野で男性と女性で回答に差があり、「PTA や保護者会、子ども会などの運営」を除くすべての項目において男女間で 10 ポイント以上の差があり、いずれも男性の方が平等と回答する割合が高い。最も差が大きいのは「法律や制度」である。

平等感に関する各設問のうち、「男女平等」と回答した割合が最も高い分野は「学校教育の場」（世間的 52.5%、個人的 49.9%）で、次いで、「PTA や保護者会、子ども会などの運営」（世間的 37.3%、個人的 38.7%）であった。「学校教育の場」「PTA や保護者会、子ども会などの運営」以外の全ての分野では、「男性のほうに優遇されている」（男性が優遇 + 男性がやや優遇）と回答した割合が、「男女平等」「女性のほうに優遇されている」（女性が優遇 + 女性がやや優遇）と回答した割合よりも高くなっている。

世間的、個人的な視点での回答を比較すると、男女ともに「学校教育の場」以外のすべての分野で世間一般よりも個人的には「男女平等」と感じている人が多い。具体的には、「職場」が 18.1 ポイント、「家庭生活」が 16.4 ポイント上回っている。一方で、「男女平等」と回答する割合はすべての分野で女性より男性の方が高く、特に、「法律や制度」で 20 ポイント、「政治や行政の施策・方針決定の場」で 19.7%ポイント、その他も「PTA や保護者会、子ども会などの運営」を除くすべての分野で 10 ポイント以上の差があり、男女間で意識の差が大きくなっている。

なお、「男女平等」と回答した割合が、前回調査から増加したのは「家庭生活」「職場」「政治や行政の施策・方針決定過程の場」で、特に、「家庭生活」は前回調査より 16.3 ポイント、「職場」は 15 ポイントと大きく増加している。

【参 考】 内閣府世論調査（令和元年9月）「平等」と答えた者の割合…「学校教育の場」61.2%、「自治会やPTAなどの地域活動の場」46.5%、「家庭生活」45.5%、「法律や制度の上」39.7%、「職場」30.7%、「政治の場」14.4%

③ 性別によって男女の役割を決める考え方について

- ・「性別にかかわらず外で働き、ともに家庭を守るべき」という考え方については約7割が賛成している。
- ・「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という考え方については、前回調査より、賛成する人の割合が低下。

「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という性別役割分担に「そう思う」（そう思う+どちらかといえばそう思う）と答えた割合は9.3%（前回27.4%）、「そう思わない」（そう思わない+どちらかといえばそう思わない）と答えた割合は60.6%（前回55.1%）となっている。年代別にみると、「そう思う」と答えた割合は男女ともに70代以降でやや高くなっており、「そう思わない」と答えた割合は男女ともに、特に、20代、30代で高くなっている。

【参 考】 内閣府世論調査（令和元年9月）「賛成」35.0%、「反対」59.8%

④ 家庭生活について

- ・「収入を得ること」は性別にかかわらず同程度分担の回答率が高い一方で、「食事のしたく」「食事の片づけ」「掃除」「洗濯」「日常の買い物」といった家庭における仕事の大半は女性が担っている。
- ・「子どもの世話」「子どもの学校活動・行事への参加」は、男性は「性別にかかわらず同程度分担」と答えた割合が最も高いが、女性は「主に女性」が最も高く、男女間で意識に差がある。
- ・家庭の仕事や子どもの世話など、主に女性が担っていることに対して、男性より女性の方が不満に感じている割合が高い。

性別、年齢別にみると、「収入を得ること」は特に20代男性、30代女性は「性別にかかわらず同程度分担」の割合が高くなっている。「食事のしたく」「食事の片づけ」「掃除」はすべての年代で男性は「性別にかかわらず同程度分担」と回答した割合は男性の方が高く、女性は「主に女性」と回答している割合が高くなっており、男女間で分担意識に差がある。

「子どもの世話」「子どもの学校活動・行事への参加」は男性、女性ともに30代は「性別にかかわらず同程度分担」の割合が高くなっている。一方で、40代、50代の男性は「性別にかかわらず同程度分担」、女性は「主に女性」と回答した割合が高くなっており、年代によって男女間で意識の差が見られる。

「介護・病人の世話」は40代～60代の男性は「性別にかかわらず同程度分担」と回答した割合が高くなっている。一方で、40代以上の女性は「主に女性」と回答した割合が高くなっており、男女間で意識の差が見られる。

地域活動については、男性、女性ともに30代、40代は「性別にかかわらず同程度分担」の割合が高くなっているが、50代、60代の男性は「主に男性」、同年代の女性は「性別にかかわらず同程度分担」と回答した割合が高くなっている。

分担の満足度については、「主に女性」の回答の割合が高かった「食事のしたく」「食事の片づけ」「掃除」「洗濯」は、全年代で男性より女性の方が「満足」（「満足」「やや満足」）と回答している割合が低く、特に、「食事のしたく」は23.1ポイントと最も差が大きい。さらに、全項目において男性より女性の方が「不満」（「やや不満」「不満」）の回答率が高く、男女間で最も差があったのは「掃除」で23.1ポイント、次いで、「食事のしたく」23ポイント、「食事の片づけ」21.2ポイントであった。

⑤ 男性が家事、子育て、介護へ参加していくために必要なことについて

「夫婦や家族間での会話など、コミュニケーションを増やす」ことが男女ともに最も高くなっている。

女性は同数で「男性が家庭にかかわれるように職場における上司や周囲の理解を進める」ことが高く、男性は「男性の長時間労働の短縮やテレワーク推進など、働きやすい職場環境を整える」ことが高くなっている。

⑥ 子どものしつけ（育て方）や教育について

しつけ（育て方）、教育ともに「性別による区別を行うべきではない」と回答した割合が半数以上。

「性別による区別を行うべきではない」と回答した割合は「しつけ（育て方）」が62.7%、「教育」が71.4%となっている。年代別にみると、「性別に応じて行うべき」と回答した割合はいずれも20、30代で高くなっている。

⑦ 女性の働き方について

男性は「子育ての時期だけ一時的に仕事をやめ、その後は仕事を続ける」、女性は「結婚、出産にかかわらず仕事を続ける」と答えた人の割合が最も高い。

性別にみると、「子育ての時期だけ一時的に仕事をやめ、その後は仕事を続ける」は男性46.3%、女性41.3%で、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」は男性33.3%、女性46.7%となっている。

【参考】内閣府の世論調査（令和元年9月）「一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか」について、「子供ができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」20.3%、「子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい」61%（※回答者数2,645人）

⑧ 女性が結婚・出産・育児や介護によって退職せずに働き続けるために必要なことについて

「家族の理解を深める（家事・育児を家族で協力する）」ことが男女ともに最も高い。

男女ともに「家族の理解を深める（家事・育児を家族で協力する）」ことが最も高く、次いで、「保育施設など子育て支援サービスの充実」が選ばれている。

⑨ 性別にかかわらず全ての人が対等に働くために必要なことについて

「家庭と仕事を両立できるように家庭内で協力し合う」「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場づくりを進める」が多く選ばれている。

ほぼ同数で「家庭と仕事を両立できるように家庭内で協力し合う」「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場づくりを進める」ことが選ばれており、次いで「給料や仕事内容、昇給などの男女差を解消する」ことが選ばれている。

⑩ 自営業・経営者の方が取り組んでいることについて

半数以上が、性別にかかわらず能力を評価したり、休暇制度を設けるなど働きやすい環境の整備をしている。

自営業・経営者の方に自身の職場について質問したところ、「性別にかかわらず、個人の能力を評価している」は60.5%、「育児・介護に対応した柔軟な働き方をすすめている」59.2%、「自営業であっても労働時間を決めて、従業員が無理なく働ける環境を整えている」57.9%、「従業員が働きやすいように、休暇制度を定めている」51.3%であった。

⑪ 地域活動について

自治会長や区長、PTA 会長などの地域の役職に推薦された場合、女性は「断る」を選んだ割合が高い。

女性の53.1%が「断る」を選択している。その理由には、「時間的余裕がないから」が50.7%と最も高く、次いで「役職につく知識や経験がないから」が47.9%となっている。

一方、男性は妻やパートナーなど身近な女性が地域の役職に推薦された場合には、「引き受けることに賛成する」を選んだ割合が「反対する」よりも高くなっている。「引き受けることに反対する」を選んだ理由には、「時間的余裕がないから」が66.7%と最も高い。

⑫ 町内会や自治会において、企画や方針を決める場に女性が参画していくために必要なことについて

「男性が女性の声に耳を傾ける」を選んだ割合が最も高い。

男女ともに「男性が女性の声に耳を傾ける」を選んだ割合が最も高く、回答者の40.8%が選んでいる（男性39.1%、女性42.9%）。性別にみると、男性は、次いで「女性の参画意識を高める」35.3%、「家族の支援・協力を得られるようにする」32.1%が続いている。女性は、次いで「性別による役割分担や差別の意識を改める」36.9%、「家族の支援・協力を得られるようにする」35.9%が続き、男女間で一部異なる回答となった。

⑬ 防災面でこれから必要なことについて

「避難所運営の基準などをつくり、女性や子ども、外国人、多様な性の人など、避難したすべての人が安全に過ごせるようにする」ことを最も多くの回答者が選んでいる。

回答者の半数が「避難所運営の基準などをつくり、女性や子ども、外国人、多様な性の人など、避難したすべての人が安全に過ごせるようにする」「備蓄品について女性や介護が必要な方、障がい者の視点を入れる」ことを選んでいる。

⑭女性議員が増えるために必要なことについて

「男性優位の考え方を改める」ことを最も多くの回答者が選んでいる。

女性議員が増えるためには、「男性優位の考え方を改める」と回答した人が最も多く、次いで「家庭の支援・協力を得られるようにする」「出産・育児休暇や手当を充実する」「地域・職場における女性のリーダーを増やす」が多くなっており、意識啓発と合わせて、環境の整備、育成の場が求められる。

⑮暴力の被害について

1年以内に暴力を受けたことがある人の割合が前回調査より増加。

配偶者やパートナー、恋人などから暴力（言葉による暴力、精神的な暴力を含む）の被害を受けたことがあるのかについて、1年以内に暴力を受けたことがある人は2.6%（13人）だった。前回調査は1.9%で、0.7ポイント増加となった。「暴力を受けたことがある」とした回答者へ、当時、誰かに相談したかどうかについては、男性の40%は「誰にも相談しなかった」を選択している。相談した場合は、男女ともに「友人・知人」への相談が最も多い。

被害が増えた背景に、前回調査からDVに対する認知が広まったことやコロナ禍のステイホームによる影響が考えられる。

【参考】鳥取県男女共同参画意識調査（令和元年）「この1年の間に、被害を受けた」0.6%（5人）

⑯DV、セクハラなどの被害に対して、必要だと思う支援について

「緊急避難所（シェルター）や警察による緊急保護などの安全確保」が最も多い。

被害者への支援については、回答者の半数以上が「緊急避難所（シェルター）や警察による緊急保護などの安全確保」「緊急時の相談体制」を選択している。

⑰男女共同参画社会実現に向けて、町行政に期待すること

「お互いを理解し、性別にかかわらず働きやすい職場をつくるための企業への啓発」が最も期待されている。

町行政が今後力を入れるべきことに、回答者の半数以上が「お互いを理解し、性別にかかわらず働きやすい職場をつくるための企業への啓発」を選択しており、次いで「育児や介護を支援する施設やサービスの充実」が期待されている。

⑱コロナの影響について

回答者の4割は影響がないと回答。

コロナで受けた影響について、「特になし」が40%、「収入減少による家計の悪化」が22.9%、「メンタルの不調」が29.2%、「家族との関係悪化」が6.8%であった。「収入減少による家計の悪化」を性・年代別にみると、男性は40代、50代で回答者が多く、女性は20代～60代まで幅広い層で多く回答されている。職業別にみると、「正社員・正職員」が38.3%と最も多く選択している。